

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

愛媛大学教育学部附属小学校 教諭 吉岡 舞

1 単元名 道後の“たからもの”広め隊！

2 単元の目標

- ・ 地域のよさや人々の思いを知り、それを広めていくための方法や自分たちにできることが分かる。
(知識及び技能)
- ・ 地域のよさや人々の思いについて情報を集め、相手意識を持ってまとめたり表現したりする。
(思考力・判断力・表現力等)
- ・ 自分が地域の一員であることを自覚し、地域のよさや人々の思いをいろいろな人に伝え、広めていこうとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の子どもは、1学期に「道後のひみつ 見つけ隊！」の学習を行った。社会科の学習で学校の周りの様子を歩いて調べる中で、商店の多い道後の町を訪れた子どもたちは、たくさんのお客さんと出会った。ある修学旅行生に話し掛けてみたところ大阪から訪れていると分かり、「遠くから来てくれてうれしい」という思いを持つと同時に、「どうして数ある観光地の中から道後を選んだのだろう」という疑問も抱いた。そこで再び道後に足を運び、観光客約80人にインタビューを行った。全国各地からたくさんのお客さんが来ていること、道後温泉をめあてに来た人が多いこと、そのほとんどが道後を気に入ったこと等を知った子どもたちは、改めて身近な道後の町のよさに気付くとともに、自分たちで疑問を解決したことへの自信や探究的な学習の楽しさ、よさを実感し、主体的に学ぼうとする気持ちも高まっている。

(2) 教材観

1学期の学習からさらに視野を広げ、地域のよさや自分と地域とのつながり、自分も地域の一員であることに気付き、探究的な学習を通して課題を解決したり、自己の生き方を考えたりする力を伸ばしていきたいと考え、本単元を設定した。

観光客に行ったインタビューの結果を考察する中で、「道後温泉」を挙げる人がほとんどであったことから、子どもたちは「温泉以外にも素敵なものはたくさんあるのに」「あまり知られていないのかな」と感じ、「もっとみんなにたくさんいいところを知ってほしい」「自分たちが伝えて広めていきたい」という新たな課題を持った。そのような子どもたちに、地域の一員としてこの課題に向き合い、自分事として捉え、自分たちでどのように広めていくことができるか考えさせたい。国語科「取材して知らせよう」「インタビューをしよう」や、社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」で学習したことを生かして調査活動で情報収集をしたり、得た情報を整理し、まとめ、表現したりすることを通して、課題解決に必要な知識・技能を身に付けさせるだけでなく、探究的な学習のよさに更に気付かせることができると考

える。また、自分たちの力で伝え、広めていくことを通して、学びをこれからの地域づくりや自己の生き方に生かそうとする態度も育てることができるだろう。

(3) 指導観

単元の指導に当たっては、まず「道後温泉以外のよさを同じくらい知ってもらおう」「道後が好きだな、また来たいなと思ってもらう」という単元のゴールイメージをはっきりさせることで、自分たちの思い描く未来像を明確にし、見通しを持って探究活動ができるようにしたい。

次に、自分の伝えたい道後の“たからもの”について調べていく。建物や乗り物、食べ物や歴史など、思いを持っておすすめしたいものを選択することができるようにする。調べ学習では、目的に合わせて本やパンフレット、タブレット端末等を効果的に用いるとともに現地での取材活動も取り入れ、人とのかかわりを通して、道後の町づくりには人々の思いや願い、努力も欠かせないことに気付かせたい。

そして、調べたことを伝える活動に向けて「3花（3年花組）旅行会社」を設立し、テーマごとに情報を整理・分析し、まとめていく。相手意識を持ち、どの情報をどのような方法でまとめ、表していくと効果的に伝えることができるか考えることができるようにする。また、グループで活動することで、たくさんの情報を集めたり、多様な視点で制作したりすることができるという協働的な学習のよさにも気付かせる。

制作の途中において、一度伝える活動を設定し、自分たちの集めてきた情報や作ってきたものが、伝えたいことをしっかりと伝えるために十分であるか、相手によく伝わったかを見詰め直す。よかったところはどこか、何が足りないか、そのために何が必要かなど、これまでの学習を自己調整し、よりよいものを作ろうという思いや粘り強く取り組む力を高めていく。

まとめる活動後は、再度道後に出掛け、観光客に道後の“たからもの”を伝える。自分たちが探究してきたことのよさを他者に認めてもらったり、喜んでもらったりすることで、子どもたちの学習を価値付けることができると考える。また、自分たちの力で“たからもの”を伝えることができたという実感を味わうことで、よりよい未来社会の実現へ自信を持ち、これからも地域の一員として、地域や人とのつながりを大切にして生きていこうとする気持ちを高めることができるであろう。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…自分たちの生活と地域とのつながりに気づき、町のよさや人々の思いを知るとともに、それを自分たちも伝えていくことが大切であること

連携性…たくさんの人たちが連携し合い、豊かな町、魅力ある町づくりに長年取り組んでいること

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

他者と協力する力

地域のよさやすばらしさを広めるために、共同学習者やゲストティーチャー等、他者

と協力して探究する。

つながりを尊重する態度

探究的な学習を通して他者とながら、相手を尊重しながら活動する。また、自分と地域とのつながりに気づき、地域への愛着を持ったり、自分にできることを考え実践しようとしたりする。

進んで参加する態度

自分が地域の一員であることを自覚し、地域のよさやすばらしさ、人々の思いなどをいろいろな人に進んで広めていこうとする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

先人や現代の人たちの苦勞や努力によって伝統文化が守られてきたことを理解するとともに、これから自分たちも伝えていかななくてはならない。

人権・文化を尊重する

地域に受け継がれている様々な伝統や文化を尊重することが大切である。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 探究活動を通して地域の人とながら、自分も地域の一員であることを理解している。	① 対話やグループ活動で、地域のよさを広める方法をいろいろな視点から考えている。	① 「道後のよさを広める」という目標に向けて、見通しを持って探究的な学習に取り組もうとしている。
② 地域のよさや人々の思いを知り、それを広めていくための方法や自分たちにできることが分かる。	② 探究活動を通して必要な情報を集めるとともに、集めた情報を効果的、協働的にまとめている。 ③ 地域に自ら出向き、地域のよさを自分たちで広める活動を通して、学びの成果を具体的に実感している。	② 自己評価や相互評価、ゲストティーチャー等による他者評価により、協働的な学習のよさや自己の学び、成長に気付いている。 ③ 本単元で学んだことを今後の生活や学習でどう生かしていくか考え、自己の生き方を見詰めている。

5 単元の指導計画（全22時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期の道後インタビューを振り返り、課題と目指すゴールを確かめるとともに、学習の見通しを持つ。 ・ 観光客の人に、温泉以外の道後のよさをもっと知ってもらいたい。 ・ 「道後が好きだな」「また来たいな」と思ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期に行ったインタビュー結果を再度提示し、「道後の“たからもの”を広めたい」「また来たいと思ってもらいたい」という課題を明確に持たせる。 ○ 単元のゴールイメージとそれに向かう過程を話し合っ決定することで、見通しを持って探究活動に取り組むことができるようにする。 	ウ① (主体的)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝えたい「たからもの」について調べる。 ・ からくり時計や坊ちゃん団子のことを伝えたいな。 ・ 道後の町の人の思いも知ってほしい。 ○ 道後に行って情報を集める。 ・ お店や町の人にインタビューしてみよう。 ・ よさをしっかり伝えられるように、たくさん情報を集めよう。 ○ 「3花旅行会社」を設立する。 ・ 道後のよさをどんな方法で伝えようかな。 ・ よく伝わる方法を考えよう。 ○ 調べたことをまとめる。 ・ おすすめポイントをくわしくまとめよう。 ・ もっとよく伝わるにはどうすればいいかな。 ・ 道後に行って観光客の人に伝えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人が「伝えたい」という思いを持つことができるようにするために、自分の伝えたい“たからもの”を選んで追究する。 ○ 地域に足を運んだり、地域の方の話を聞いたりすることにより、自分も地域の一員であることを自覚させたり、地域に愛着を持ったりすることができるようにする。 ○ 「旅行会社」を設立し、グループでまとめていくことで協働的に探究活動を行う。 ○ まとめ・表現の活動の途中で一度伝えてみる活動を取り入れ、もっとよさを効果的に伝えるための課題をつかませる。それにより、活動の自己調整を行い、粘り強く取り組む態度を育てる。 	ア① (知・技) イ② (思判表) イ① (思判表) ア② (知・技) イ② (思判表) ウ② (主体的)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光客に道後の“たからもの”を伝えよう。 ・ いいところをたくさん知ってもらえたかな。 ・ 道後が好きだな、また来たいなと思ってもらえたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道後へ行って観光客に伝える活動を行い、自分たちで“たからもの”を広めることができたという成果を味わわせる。 ○ 伝える活動を通して地域のよさを再度実感することができるようにする。 ○ 単元を振り返り、本当に「道後が好きだ」「また来たい」と思ってもらえたのかを検証することで、学びの成果や新たな課題について考えさせる。 	ア① (知・技) イ③ (思判表) ウ②③ (主体的)